古きと新しきが共存する街 「ボストン街歩き」

街plus
探訪

東京大学 川原圭博 Yoshihiro Kawahara

1 歴史ある街、ボストン

ボストンの街を説明するには「古い」という形容詞が最も似つかわしい。ボストンはアメリカ合衆国北東部の6州を合わせた「ニューイングランド」の経済的、文化的な中心都市である。このニューイングランドという呼び名は、1620年にイギリスのピューリタンがこの地に移住を始め、植民地を設立したことによる。ボストンでは18世紀、アメリカ独立戦争のきっかけとなった数々の出来事が起こった場所に今でも訪れることができる。イギリス本国が課した税にボストン市民の不満が爆発、州議事堂前での駐留イギリス兵との衝突中に市民5名が射殺された「ボストン虐殺事件」(1770年)の現場は今では最も有名な観光地の一つになっている(図1(a))。イギリス政府からアメリカでの茶の独占販売権を与えられた東インド会社の船を襲撃し、ボストン港に342箱の紅茶の茶箱を投げ捨てた「ボストン茶会事件」(1773年)を再現したアトラクションも有名である。こうしたアメリカの独立、建国にまつわる史跡はボストンの中心地に集結しており、この一つ一つが一続きの赤い線で結ばれている。これは全長4kmほどのフリーダムトレイルと呼ばれる徒歩で一周できるようになっている(図1(b))。

アメリカを旅したことがある方ならお分かり頂けると思うが、アメリカにおいて17世紀や18世紀の言及があるというのは実は相当に珍しいことである。何しろ「独立宣言」が読み上げられアメリカの国が生まれたのが1776年7月4日、日本で言えば江戸時代も後期である。こうしたこともあって、ボストンには数多くの「アメリカ最古」が存在する。

フリーダムトレイルの起点でもあるボストンコモンは、アメリカ最古の公園であり、その隣のパブリックガーデンにおいて1877年から営業しているスワンボートはアメリカ最古であるだけでなく世界最古、ここが発祥の地である(図1(c))。(ちなみに東京の不忍池やら井の頭公園でお目に掛かれるスワ

ンボートと違って相乗りであり、船頭さんが漕いでくれる。)

また、Union Oyster Houseというシーフードレストランは現存する最古のレストランとして観光客に人気である。

2013年にメジャーリーグベースボールのワールドチャンピオンに輝いたボストンレッドソックスの本拠地フェンウェイパークも、これまた現存するアメリカ最古の球場である(図2)。都市に無理やり建てたいびつな形状のため、レフト側の距離が短い。このためホームランが容易に出ることを防ぐためにグリーンモンスターと呼ばれるうんと高い壁がレフト側に築かれている。客席の前後の間隔も短く、高

図1 (a) ボストン虐殺事件が起こった旧州議事堂前。(b) ボストンコモンのフリーダムトレイルの起点。赤い線に沿って歩けば名所を一巡できる。(c) パブリックガーデンの元祖スワンボート

図2 フェンウェイパーク、地元レッドソックス v.s. 宿敵ニューヨークヤンキース。球場の狭さを補うためにレフト側のフェンスが非常に高い。

いチケット代を払って内野席を取っても「あり得ない」場所に立つ柱で視界がばっちり妨げられることも……。それでも市民に深く愛された球場で、「宿敵」ニューヨークヤンキースとの対戦はチケットの値段もぐんと跳ね上がる。夜風に当たりながら、本場のヤジをつまみに、独立戦争の立役者の名が付いた地ビール「サミュエル・アダムス」をあおるのも100年間以上続くボストンの夏の風情というものである。

2 未来の産地、ボストン

ボストン近郊には、アメリカ最古の大学であるハーバード大学をはじめ、マサチューセッツ工科大学（MIT）、タフツ大学、ボストン大学、マサチューセッツ大学など、そうそうたる大学が密集している。

ハーバード大学が位置するのはケンブリッジと呼ばれるボストンから見てチャールズ河を挟んだすぐ反対側の対岸の街である（図3）。ボストン市内から地下鉄 Red line に乗って10分少々で、Harvard 駅に到着する。駅を降りると高層ビルが建ち並ぶボストン中心地とは全く異なる雰囲気の街並みが目に飛び込んでくる。小さな商店やカフェ、ブティックに溶け込むようにして、ハーバード大学の古めかしい建物が点在する。大学寄贈者のジョン・ハーバードの像があるハーバードヤードはボストン観光の人気の観光名所の一つでもある。触れると幸運が訪れると言われる像の爪先は、観光客の手によりいつもピカピカに磨き上げられている（図4）。

ハーバード大学から約3km離れた場所にあるMITは、総合大学のハーバード大学に比べると生徒数もキャンパスのサイズも小さいが、ノーベル賞受賞者の数はハーバード大学を上回る。マサチューセッツ工科大学という名前からしていかにも公立大学のように聞こえるが、ハーバード大学と同様私立大学である。東海岸の大学というといかにもスノビッシュであるが、こと情報系に関してはリベラルで、フレンドリー。学生が親子ほど年の離れた指導

図3 ケンブリッジからチャールズ河とボストン市街を望む。大学所有の小形ヨットは大学関係者なら乗れる。

教員をファーストネームで呼ぶのを見るとこちらがハラハラしてしまう。

京都大学の折田先生像よろしく、MITには学生の手によって仕掛けられた凝ったいたずら（Hack）がキャンパス内に突如現れることもある。関係者の度肝を抜いた歴史上最も有名なHackは、キャンパスの一番のシンボルであるグレートドーム（図5）の上にパトカーが置かれていたこと。本物のパトカーが盗まれたとあつては治安上の一大事ということで一時は警察が出動する騒ぎとなったが、よく見ると巧妙に作られたハリボテのパトカーであったそうな。誰がどのようにして運び込んだか不明であるが、御丁寧に解体手順を説明したマニュアルが用意されていたとか。大学側の対応も粋で、このとき飾られていたパトカーはコンピュータ科学・人工知能研究所（CSAIL）が入居するStata Centerにて保存されており、誰でも見ることができる（図6）。無料のキャンパスツアーに参加すれば案内してくれる。

ハーバード大学とMITは、両校合わせて150名以上のノーベル賞受賞者を輩出しており、世界屈指の知の拠点として機能している。情報通信分野ではシリコンバレーを中心としたスタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校の存在感が非常に強い。確かにシリコンバレーは起業家にとって最高の環境である。才能のあるものが世界中から自然と集まり、起業のバリアが低い。そして何より、年中気候が良い。起業家だって孤独で不安になることもある。誰も実現したことのない、そして、成功率の

図4 ハーバードヤードにてジョン・ハーバードの像に「お参り」する観光客。

図5 MITのグレートドーム

図6 Hackに使われたパトカー。いたずらもスケールが違う。

すこぶる低い大きな挑戦をする起業家は当然悩みや迷いがある。しかし、カリフォルニアの太陽とカラッとした空気は、それだけでちっぽけな悩みを吹き飛ばしてしまうほどの不思議な力があるように思う。(ボストンは、夏は比較的涼しいが、冬は河も凍るほど寒い！)

そんなハンデ(?)を背負ったボストンであるが、そこは米国最古の都としての底力、実は多くの重要な技術やビジネスを生み出している。例えば、情報理論の開祖クロード・シャノンはMITの卒業生である。修士論文はディジタル回路・論理回路の概念の確立に大きく寄与したと言われている。パロアルト研究所でイーサネットを発明したロバート・メトカーフもMITにおいてARPANETの接続責任者を経験しており、ALOHAnetの改善を行ってハーバード大学から博士号を授かっている。そして、現在世界最大手のCDN事業者であるAkamaiのCEOトム・レイトンは、MIT CSAILの教授であり、共同創業者のダニエル・ルウィンはその教え子である。ロボット掃除機のRoombaもMIT発祥だ。ハーバード大学の学生であったマーク・ザッカーバーグが同級生たちとフラタニティ(寮)にてFacebookの開発を始めたことは、映画にも詳しく描かれているので御存じの方も多だろう。Dropboxの創業者ドリュー・ヒューストンもまたMIT CSAILの卒業生である。

3 ボストンの食文化

一般的に言って、アメリカの外食事情は余り良いものではない。端的に言えばまずい。ただし、アメリカ人もそれなりに美食家はいて、現地の人がおいしいというお店は本当においしい。最近ではYelp!などのレビューサイトが充実しているのでこうしたサイトで評判を確認して訪れれば旅行者でもある程度おいしいものにありつくことができる。

そもそもボストンはアメリカの中でも食に関し

図7 殻ごとゆでたロブスター。溶かしバターで食べるのがアメリカ流。

ては恵まれている方である。ボストンから北のメイン州そしてカナダにかけての大西洋沿岸に良好な漁場があり、一大消費地ボストンには新鮮なシーフードがたくさん集まってくる。最も有名なシーフードはロブスターであろう。車でメイン州の漁港まで足を伸ばせば、水揚げしたばかりのロブスターをその場でゆでて食べられる場所も多くある(図7)。

ボストン産のマグロやウニは築地市場において高値で取引されている。ウニはボストンで加工されてから日本に輸出されているため、運が良ければ日本よりも新鮮なものを食べることができる。初夏には脱皮したてのワタリガニであるソフトシェルクラブが店頭に並び、セモリナ粉をまぶしてオリーブオイルで甲羅ごと唐揚げにすると最高のつまみになる。

忘れてはいけないのが牡蠣とクラム。クラムは蛤のような二枚貝でボストン名物クラムチャウダーの原料となる貝。クラムチャウダーは各レストランが秘伝のレシピを競い合っており、各店で少しずつ違った味を楽しめる。殻をむいたクラムを生で食べるのもなかなか美味である。クラムは船のバラスト水に混ざって運ばれて来て、今では東京湾でも多く繁殖している。日本ではホンビノス貝と呼ばれ東京や千葉のスーパーや鮮魚店の店頭に並んでいることもある(東京湾産もボストン産と同じぐらいおいしい)。

ボストンのチャイナタウンのレストランでは手頃な値段でおいしいシーフード料理を食べられる。リーガルシーフードは市内で最もよく見掛けるシーフードレストランであるが、チェーン店と侮ることなかれ。比較的良心的な値段で正統派のシーフード料理を楽しむことができる。

ケンブリッジのMITやハーバード大学のそばには個性的なレストラン、カフェ、バーが多くある。Kendall/MIT駅から北に徒歩5分ほどの所にあるカフェVoltageのエスプレッソは大変おいしい。隣駅Central駅のそばにはスコーンやコーヒー、アイスクリームのおいしいToscanini'sというカフェがあり根強いファンが足しげく通っているという。

ハーバード大学のOBが開いたFinaleのケーキは、アメリカにしてはとても珍しく甘さ控えめで、日本人駐在者の間でもとても人気である（通常アメリカのケーキは砂糖たっぷりでしびれるほど甘い。）

MIT関係者との打合せの後、軽く一杯やりたければ、学内にあるMuddy Charles Pubがよい。MIT関係者がいれば入店でき、地ビールを安く飲める。Central駅のBrick & Mortarも筆者のお気に入りのバーである。

全米に展開しているドーナツのチェーン店ダンキン・ドーナツはマサチューセッツ州が発祥。日本で多く展開しているミスタードーナツも実はボストン発祥で現在はダンキン・ドーナツの運営会社の資本下にある。アメリカ最古のホテルOmni Parker Houseのバーのボストンクリームパイもボストン発祥のデザート。スポンジにカスタードクリームをサンドして、チョコレートでカバーしたケーキである。

現在、アメリカ西海岸とニューヨークには非常にレベルの高いラーメン屋が数件出店しており、どこも長蛇の行列ができています。京都にある「夢を語れ」は太麺に野菜や煮豚を豪快に盛りつけたいわゆる「二郎インスパイア系」の有名なラーメン店。2012年にケンブリッジのPorter Squareに海外1号店をオープンした。こちらのお店もオープン以来行列が途切れることがないほどの人気店で、MITでも学生の間で「Porterのラーメン屋行った？」が挨拶代わりになっていた時期もある。物珍しいだけでなく実際掛け値なしに美味しい。二郎系のお店はトッピングをアレンジするための独特の掛け声「コール」が有名だがケンブリッジのYume Wo Katareでも健在だ。店主が「ニンニク入れますか？」と元気良く日本語で聞くと、お客のアメリカ人もニッコリと「Garlic and Extra Vegetable!」（ニンニクやサイマシ!）と切り返しているのを聞いたとき、これは、何だかアメリカのラーメン史に新たな1ページが刻まれた瞬間に立ち会えたよう

図8 Yume Wo Katareの注文プロトコルの説明と「Extra VegeTable」

な気がした（図8）。

4 まとめにかえて

ハーバード大学のMBA（経営学修士）のコースに2年間通うには学費と生活費を合わせて2,000万円ほど必要だ。既に入学前に年収1,000万円前後の会社のポジションを捨てて入学する人も多いので給料の損失を加えると4,000万円程度「回収」できないとMBAを取る意味はなくなる。だから学生も必死になるし、かなり真剣に人生を設計する。大学の宿題の量はすさまじく、卒業するのも楽でない。そんな難関をくぐり抜けたからこそ、卒業できさえすれば、初任給2,000万円のポジションに就くこともそれほど困難でないと言われる。しかし、それでも目先の利益を追うのではなく「自分のやりたいこと、自分にとって意味があること」を選び、貫く生き方が「粋」とされている。

筆者もMIT訪問中に、起業家や起業準備中の学生に多く出会った。ボストンには大きな夢を持つ者、夢の実現に手を貸してくれる仲間が集まり、そして彼らの起業を後押しする「空気」がそこら中に満ちている。前述のDropboxの創業者ドリュー・ヒューストンが、Dropboxの最初のコードを書き始めたのは、ボストンのSouth Stationの待合室でニューヨーク行きのバスを待っていたときであったという。イノベーションはこの街の至る所で起きている。

ケンブリッジのラーメン店「夢を語れ」の壁には大小様々な額が飾られている。店主の西岡さんの究極の夢は「全人類の夢の実現」。夢を語る人を増やし、壁をたくさん人の「夢を描いた額」で埋め尽くし、それぞれの夢を後押しできるような場にしていきたいのだという。そう遠くない将来、この小さなラーメン屋も未来誕生の舞台となるかもしれない。

謝 辞 有益な情報を頂きました。橋本道尚さん、新山龍馬さん、岸本早苗さん、Yuki Wenさん、河上春樹さんに感謝致します。

川原圭博（正員）

2011～2013にかけてジョージア工科大及びMIT Media Labにてインクジェット印刷技術を用いたエナジーハーベスティングデバイスを共同開発。この間、週末は料理に没頭。現在、東京大学准教授。